

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	22-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Gender specific early treatment for women with alcohol addiction (EWA): Impact on work related outcomes. A 25-year registry follow-up of a randomized controlled trial (RCT)</p> <p>アルコール依存症の女性に対する性別に特異的な早期治療 (EWA) と就労関連転帰の検討ーランダム化比較試験 (RCT) 後 25 年追跡調査ー</p>		
執筆者		
Berge LI, Gjestad R, Franck J, Javaras KN, Greenfield S, Haver B.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2022 Oct 1;239:109600. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2022.109600.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、雇用、性別に特化した治療、長期追跡調査、RCT		36007448
要 旨		
<p>背景:アルコールは、個人レベルでも地域社会レベルでも、経済的負担に寄与している。本研究では、アルコール依存症女性に対する早期治療 (EWA) 治療プログラムが、治療開始後 25 年までの病気休暇、所得、失業、早期退職年金に及ぼす影響を調査した。</p> <p>方法:EWA RCT は、1983 年から 1984 年にスウェーデンのカロリンスカ大学病院で行われたアルコール使用障害を有する女性 200 人が参加した臨床研究である。参加者は、精神医学、対人関係、家族への配慮を含む 2 年間の女性専用治療である EWA プログラム、または男女混合環境での通常治療 (TAU) に無作為に割り付けられた。試験終了後、RCT の参加者を 1985 年から 2009 年まで追跡し、全国労働市場登録データベースとリンクさせ、潜在成長曲線モデリングを適用して、病気休暇、所得、失業、早期退職年金の水準と変化を推定した。</p> <p>結果:TAU 群と比較して、EWA 群では治療後 21 年までの病気休暇の増加が少なかった。全体として、治療群間で収入に差は見られなかったが、2 年間隔の分析では、EWA 群で治療後 8 年までの収入の増加が大きかった。失業と早期退職年金の水準と変化については、治療群間で差がなかった。</p> <p>結論:アルコール依存症の女性に対する精神医学的、対人関係的、家族的問題に重点を置いた性別に特化した治療は、病気休暇と収入に対して長期的にプラスの効果をもたらした。これらの知見は、飲酒パターン、メンタルヘルス、死亡率に対する EWA 治療プログラムの肯定的な臨床結果を補完するものである。</p>		